

2025年 ふくやま書道美術館催物案内

8月

第20回 一緒にかく古代文字展



会期：8月1日(金)～8月17日(日)

場所：ふくやま美術館2階多目的室

(ふくやま書道美術館と同フロア)

開催時間：午前9時30分～午後5時

展覧会内容：本展は、6月と7月に開催した古代文字を書くワークショップで制作された毛筆作品を展示します。漢字の最も古い形の古代文字からヒントを得て自由に書かれた作品は、活き活きと表情豊かで個性にあふれていますよ！

入場無料です。お気軽にご覧ください☆

所蔵品展観覧料

一般	150円 (120円)
高校生以下無料	

※()内は有料20名以上の団体料金

次の方は観覧料が無料です

- 社会福祉施設に入所されている方(観覧料減免申請書の提出が必要)
- 福山市・府中市・神石高原町に住所を有する65歳以上の方(運転免許証や健康手帳など、住所・年齢が確認できるものが必要)
- 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳を持参する方、及びその介護者1名

※開館時間は午前9時30分から午後5時までです。

※月曜日【 】の日は休館日です。

FUKUYAMA MUSEUM OF CALLIGRAPHY
ふくやま書道美術館

〒720-0067 福山市西町二丁目4番3号
JR福山駅福山城口(北口)から西へ約400m TEL 084-925-9222
Webページ www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-syodo/
電子メール syodo@city.fukuyama.hiroshima.jp

常設展示室・展示室

夏の所蔵品展Ⅱ 「一緒に見る 家族の書」

会期：2025年7月4日(金)～8月24日(日)

休館日：月曜休館 ※ただし8月11日(月・祝)は開館。

展覧会内容

本展では、所蔵品の中から親子関係、兄弟、親族関係のある作家の作品を展観します。中国作家からは何紹基(1799-1872)、呉昌碩(1844-1927)などを、日本作家では頼山陽(1780-1832)、桑田笹舟(1900-1989)に関係する書家作品を展示します。家族間に通ずる書風の類似性、またひとりひとりの作品に表された個性も感じながら、時代をつなぐように書文化を築き上げてきたそれぞれの家族の書を紹介します。

父親



らいさんよう
頼山陽(1780-1832)
江戸後期の詩人・歴史家であり儒学者。『日本外史』の著者として有名。

長男



らいいつあん
頼聿庵(1801-1856)
父・山陽が廃嫡となったため祖父の嫡男となり、頼家を継いだ。

次男

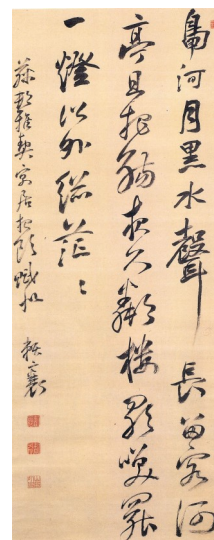


らいしほう
頼支峰(1823-1889)
兄・聿庵とは腹違いの兄弟。10歳で山陽が亡くなってからは聿庵に学ぶ。後に江戸で学び、教育者となる。

三男



らいみきさぶろう
頼三樹三郎(1825-1859)
次男・支峰と同じ母を持つ。尊王の志を持ち「安政の大獄」で罰せられた。



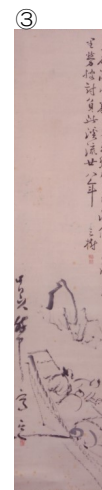
↑ 頼山陽
《行書七言絶句軸》



① 頼聿庵 《行書七言二句軸》



② 頼支峰 《山水図軸》



③ 頼三樹三郎 《嵐峡遊舟之図》

8月26日(火)～28日(木) 展示替えのため休館

秋の所蔵品展 「没後20年 中室水穂」

会期：2025年8月29日(金)～10月19日(日)

※ただし9月15日(月・祝)、10月13日(月・祝)は開館、
9月16日(火)、10月14日(火)は休館。